

# Market Watching

発表日:2019年4月15日(月)

## 日本は保護主義の米国をかわせるのか(マーケットウィークリー)

～景気失速回避期待と日米通商交渉睨みの円相場～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL:03-5221-4521)

### 【先週の市場動向】

#### 先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
4月8日(月)	日本：国際収支統計(2月)・経常収支 日本：景気ウォッチャー調査(3月)・先行き判断DI	+26,768 48.6	+26,270 49.2	+6,004 48.9	億円、原数値
4月9日(火)	—	—	—	—	—
4月10日(水)	日本：企業物価指数(3月) 日本：機械受注統計(2月)・船電除く民需 ユーロ：ECB理事会・ECB主要政策金利 ・ECB預金ファシリティー金利 米国：消費者物価指数(3月)・総合 ・コア	+0.3% ▲5.5% 0.00% ▲0.40% +1.9% +2.0%	+0.2% +2.9% 0.00% ▲0.40% +1.8% +2.1%	+0.2% ▲2.9% 0.00% ▲0.40% +1.5% +2.1%	前月比 前年比 前年比 前年比 前年比 前年比
4月11日(木)	中国：消費者物価指数(3月) 米国：生産者物価指数(3月)・最終需要 ・最終需要(コア)	+2.3% +2.2% +2.4%	+2.3% +1.9% +2.5%	+1.5% +1.9% +2.5%	前年比 前年比 前年比
4月12日(金)	中国：貿易統計(3月)・輸出 ・輸入 ユーロ：鉱工業生産(2月) 米国：ミシガン大学消費者信頼感指数(4月速報値)	+14.2% ▲7.6% ▲0.2% 96.9	+12.0% +0.2% ▲0.6% 98.0	▲20.8% ▲5.2% +1.4% 98.4	前年比 前年比 前月比
4月13日(土)	—	—	—	—	—
4月14日(日)	—	—	—	—	—



## 主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	2.565	+7.0	▲5.9	+4.3	2.358	2.468	2.638
日本	-0.045	▲1.0	▲1.0	▲7.5	-0.057	-0.027	0.049
ドイツ	0.055	+4.8	+0.0	▲46.0	0.013	0.119	0.282
豪州	1.883	▲2.2	▲15.0	▲78.0	1.883	2.093	2.418
株価							
NYダウ	26412.30	▲0.0	+3.4	+7.9	25905	25252	25274
日経平均	21870.56	+0.3	+1.7	+1.0	21477	21038	21836
ユーロSTOXX50	3447.83	+0.0	+4.4	+0.1	3369	3236	3269
上海総合	3188.63	▲1.8	+4.2	+0.3	3108	2830	2743
為替相場							
ドル/円	112.00	+0.3	+0.6	+4.4	111.11	110.32	111.51
ユーロ/円	126.53	+1.0	+0.7	▲4.4	125.27	125.13	127.66
豪ドル/円	80.32	+1.2	+1.8	▲3.5	78.89	78.59	80.23
ユーロ/ドル	1.1301	+0.7	+0.1	▲8.3	1.128	1.134	1.145
商品市況							
WTI	63.89	+1.3	+12.3	▲4.7	60.40	55.78	60.90
金	1290.6	+0.0	▲0.6	▲3.6	1300	1301	1250

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (4/8~4/12) の金融市場は、まちまちとなった。イギリスのEU離脱問題では10月末までの離脱期限延長が決まり、市場の安心に繋がった。一方で、米国とEUとの間での通商摩擦に対する懸念が浮上、市場へのマイナス要因となった。経済面では、米消費者物価がコアベースで市場予想を下回ったことや、FOMC議事録からFRBのハト派ぶりが伝わったことなどが米金利の押し下げ要因となった一方、中国の輸出が高い伸びとなったことをきっかけに、改めて同国経済の持ち直しに対する期待が高まったことで、最終的には米金利は前週末水準を上回って越週した。

今週のマーケットは、経済指標では中国のGDPや主要月次指標が発表されることもあり、引き続き中国経済に関心が集まろう。1~3月期のGDPはともかくとして、3月の鉱工業生産や小売売上高が改善傾向を示せば、景気に対する楽観的な見方は一層強まる。また、公共投資の代理変数ともいえる国有企業の固定資産投資の動向は、こここのところの同国の経済指標の急改善が景気対策によるところのものがどうかをはかるうえで注目される。株式市場は各企業の決算発表が続くなかで個別中心の展開が見込まれる。イベントとしては、日米の通商協議が注目される。米国が予想以上に強硬な姿勢であることが窺われれば、ドル/円相場にも影響を及ぼす可能性がある。

## 【今週のマーケット環境】

## 今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサ	前回	備考
4月15日(月)	米国：NY連銀製造業景気指数(4月)	★★	+6.7	+4.0	
4月16日(火)	米国：鉱工業生産指数(3月)	★	+0.3%	0.0%	前月比
4月17日(水)	日本：貿易統計(3月)・輸出 ・輸入 ・貿易収支	★★	▲2.6% +3.3% +3,677	▲1.2% ▲6.6% +3,349	前年比 前年比 億円
	中国：実質GDP(1-3月)	★★★★	+6.3%	+6.4%	前年比
	中国：鉱工業生産(3月)	★★	+6.0%	+5.7%	前年比
	中国：小売売上高(3月)	★★★★	+8.4%	+8.2%	前年比
	中国：固定資産投資(3月)	★★	+6.3%	+6.1%	年初来前年比
	英国：消費者物価指数(3月)		+2.0%	+1.9%	前年比
	米国：貿易収支(2月)		▲535	▲511	億ドル
4月18日(木)	ユーロ：PMI製造業景気指数(4月)	★★★★	48.0	47.5	ポイント
	米国：フィラデルフィア連銀製造業景況感指数(4月)	★★	+10.0	+13.7	ポイント
	米国：小売売上高(3月)・全体	★★★★	+0.9%	▲0.2%	前月比
	・除自動車	★★	+0.7%	▲0.4%	前月比
4月19日(金)	日本：全国消費者物価指数(3月)・総合 ・除生鮮食品	★	+0.5% +0.7%	+0.2% +0.7%	前年比 前年比
	米国：住宅着工件数(3月)	★	123.4	116.2	万件
4月20日(土)	—				
4月21日(日)	—				

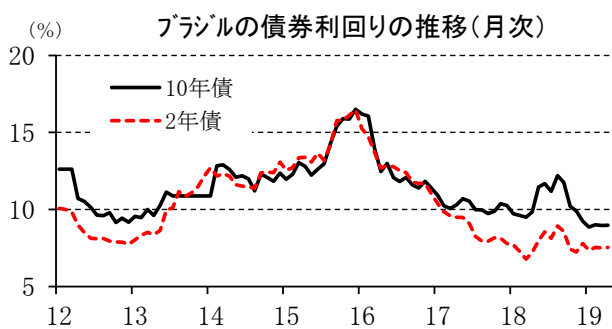
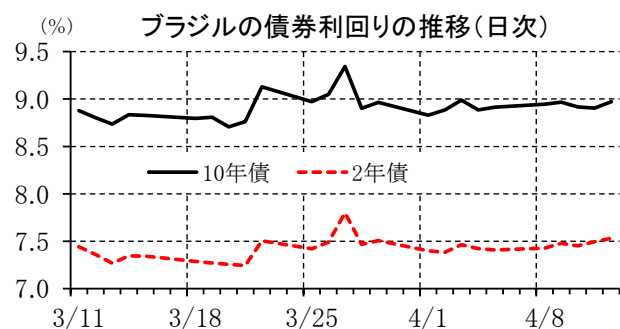
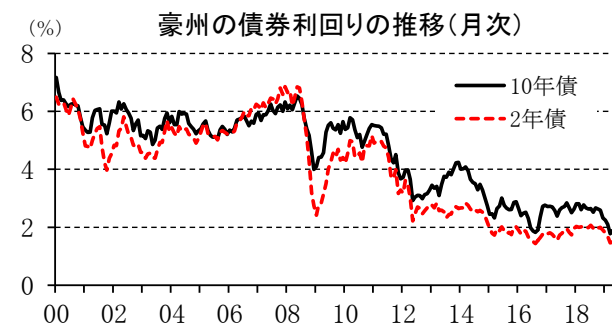
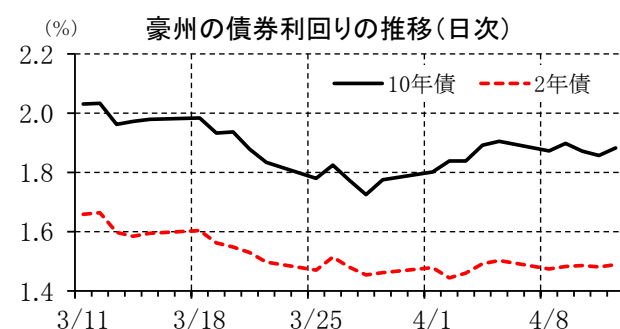
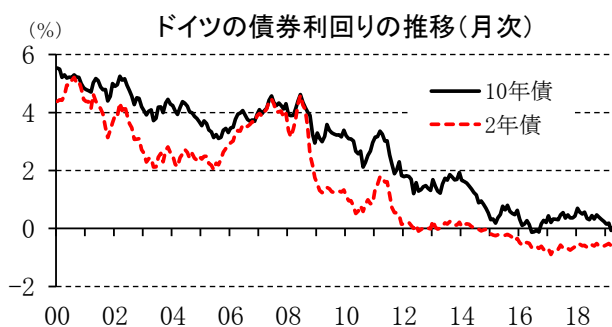
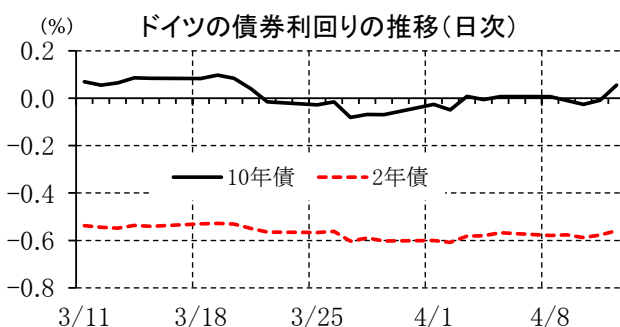
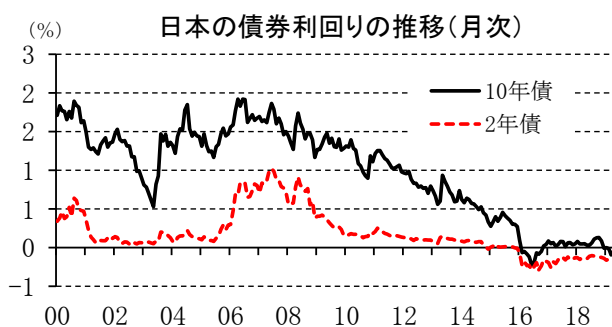
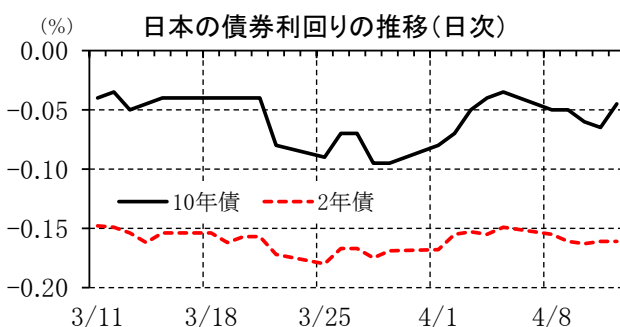
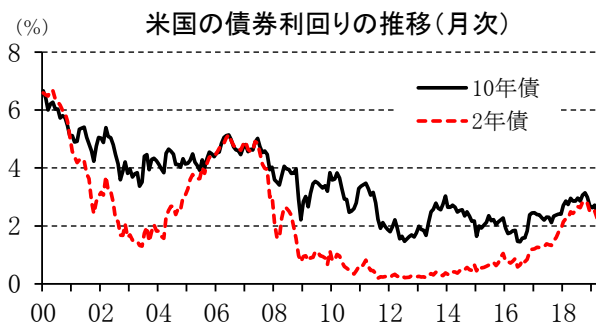
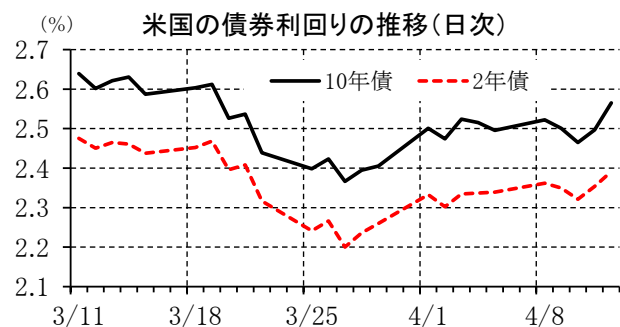
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

## その他の注目イベント・材料

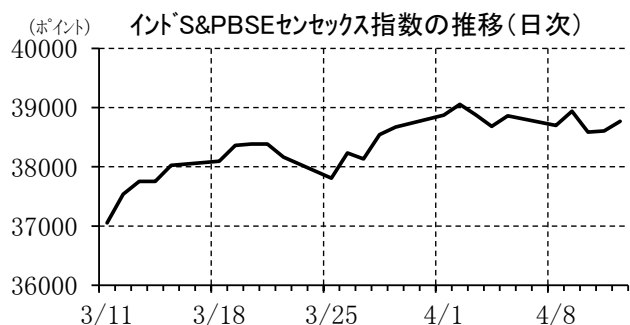
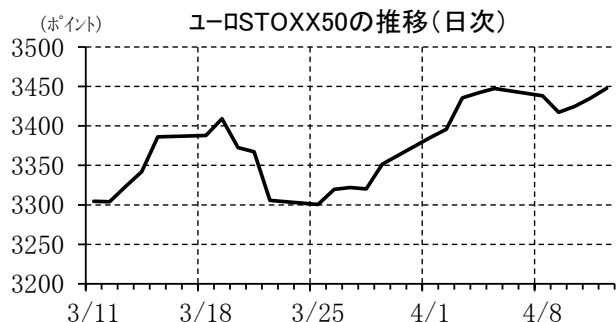
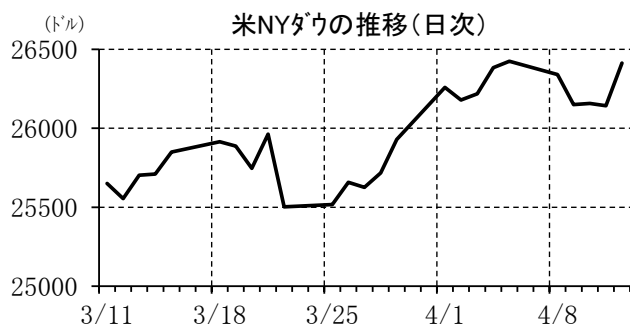
発表日	イベント	注目度	備考
4月15日(月)	日本：若田部日銀副総裁講演 日米貿易交渉閣僚級会合(～4/16) 米国：半年次為替報告書の議会提出期限	★ ★★★★ ★	
4月16日(火)	—		
4月17日(水)	インドネシア：大統領選・国会議員選投票日 OPEC定例総会 英国：カーネーBOE総裁講演 米国：ペーシェフブック	★ ★ ★ ★★★★	
4月18日(木)	日本：月例経済報告		
4月19日(金)	欧米市場休場		
4月20日(土)	—		
4月21日(日)	日本：統一地方選挙	★★	

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

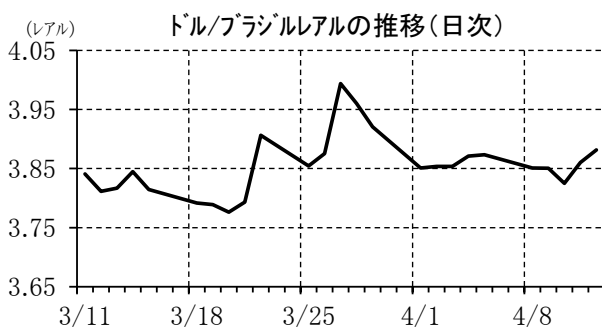
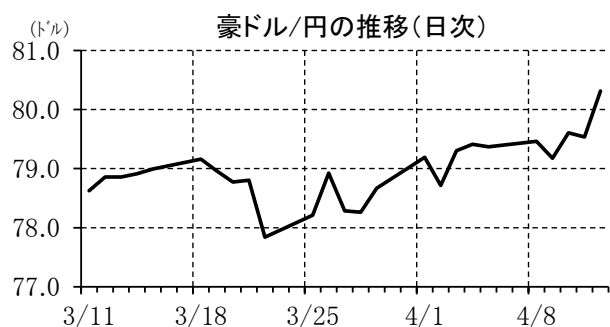
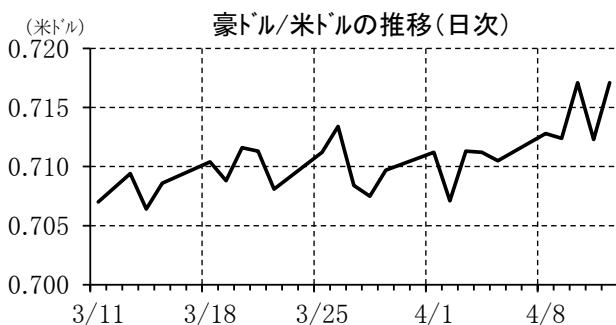
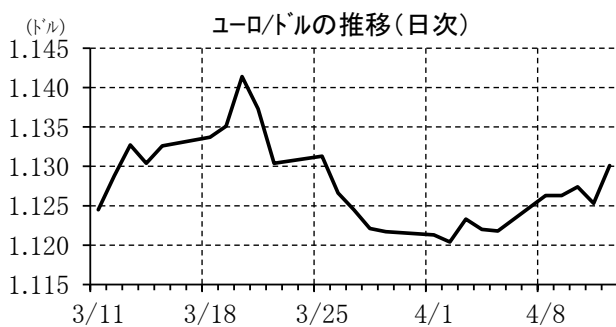
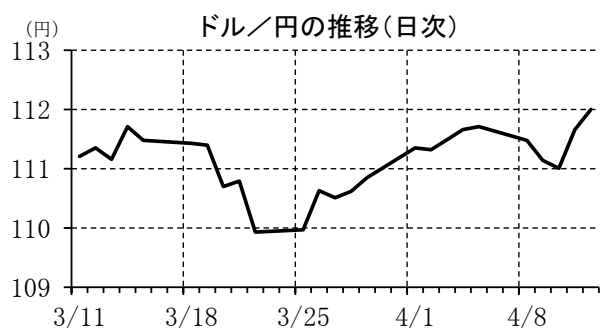
## 【債券利回り】



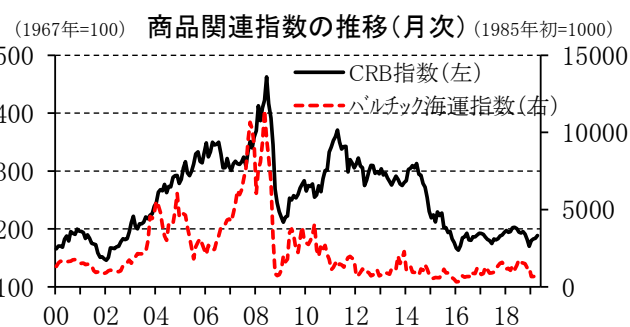
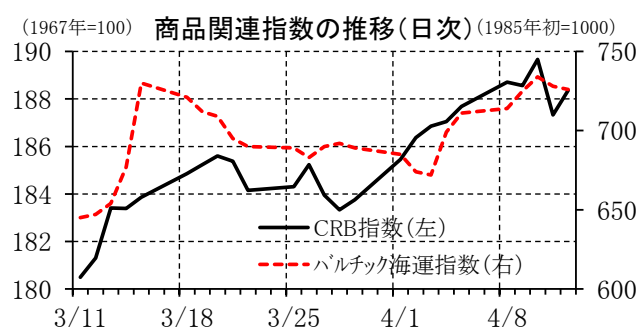
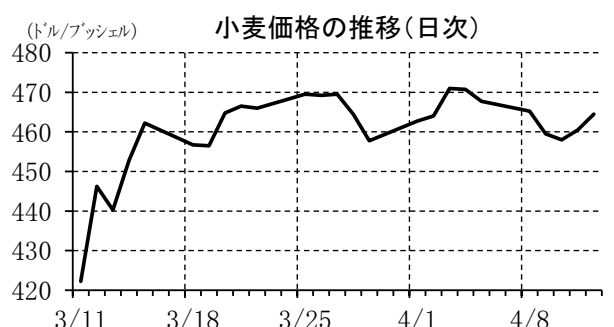
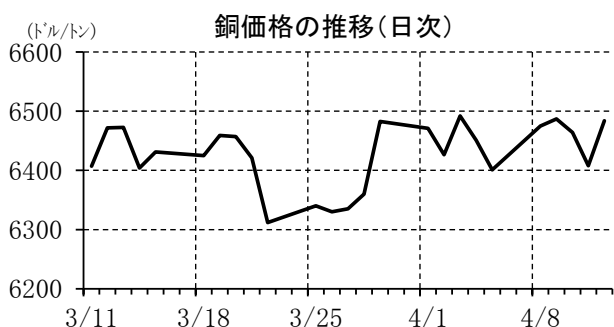
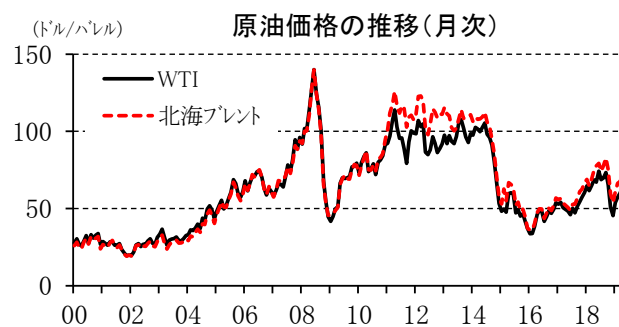
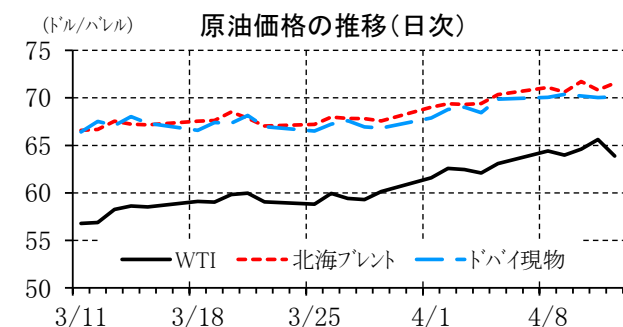
## 【株価指数】



## 【為替相場】



## 【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。